

どうすれば、より多くの方々にスタックスのイヤースピーカーの
その結果生まれたのがLambda Novaシリーズであり、新しいドラ



●Lambda Novaシリーズを手にとってご覧ください。これまでの Δ (ラムダ) シリーズとは一味違っているのに気づかれることと思います。

まずヘッドスプリングの違いが外観上の大きなポイントです。幅が広くなり、信頼性の高いABSを採用。頭部への圧力も充分考慮されています。また発音体の重要な部品である固定極（振動膜を静電気の力で動かすために、振動膜の両側に用意された金属製の穴のあいた板）に改良が加えられました。具体的には：固定極の表面を絶縁物で被い、万一のゴミなどの侵入にも極めて強くなりました。また、音の透過性にもメスが入れられ、より伸びやかな透明度の高い、音楽性豊かな音へとさらなる進化を遂げています。同時に固定極の振動も抑制され、より忠実度の高い音質を提供いたします。以上の改良点は3機種に共通したものです。次に3機種の違いをご説明いたします。

まず**Signature**。上品な茶色で統一された外観から、Lambda Novaシリーズ中、

最上級機種であることが、お解りと思います。そのサウンドユニット、シリーズ中最も薄い振動膜が使われています。特に振動膜をゴミや湿気から守る防湿膜。これに、 $1/1,000\text{mm}$ という現在入手可能な膜の中で最も薄い膜が採用されています。さらにケーブルに目を移してください。SR- Ω (オメガ)をご存知の方は同じケーブルが使われているのに気づかれると思います。これまでの Δ (ラムダ)シリーズに比べておよそ1.5倍の幅を持っているこのケーブルはキャパシタンス（静電容量）がこれまでの約半分に低減され、ドライブするアンプの負荷をぐっと軽くしてくれました。ということは高い周波数もロスなく伝送され、ソースの持つニュアンスを余すところ無く伝えてくれます。

次に**CLASSIC**。上品なグレーがテーマ・カラー。振動膜はSignatureと同じ $15/10,000\text{mm}$ 。ケーブルにPC-OCC導体を採用。社内の評では女性の人気が集中しましたが、実はSignatureにも採用しているのですが、イヤープッドの材質が新しく透

湿性（汗などを良く通す）の高い材質になり、掛け心地が一段と向上。掛け心地の良さで好評をいただいていたラムダシリーズが、さらに湿度の高い環境下でのリスニングも、より快適なものに進化いたしました。

最後に**BASIC**。これまで、Spiritの名前で親しまれてきた最もお求めいただきやすいモデルがBASICに生まれ変わりました。Lambda Novaシリーズのほかのモデルより丈夫な振動膜を採用し、信頼性が最も高いモデルと言えます。BASICは専用のドライバーユニット（アンプ）：SRM-Xhが付属してBASIC SYSTEMとして、お求めいただけます。価格はこのシリーズ中最も手頃な43,000円におさえ、これまでラムダシリーズを使っていた、と思いつつその機会を逃してきた方々にぜひこれを機会にお求めいただきたい——と存じます。

では**ドライバーユニット**について：スタックスのコンデンサーヘッドフォン（イヤースピーカー）の動作原理をここ